

様式第2号

平成26年度 安曇野市地域包括支援センター運営協議会(第3回) 会議概要

1	審議会名	平成26年度 第3回地域包括支援センター運営協議会
2	日 時	平成27年3月11日(水) 13時30分から15時10分
3	会 場	穂高健康支援センター 問診・計測室
4	出席者	宮澤会長、勝山副会長、高山(眞)委員、高山(桂)委員、左々木委員、高橋委員、堀内委員、丸山(良)委員、丸山(浩)委員、増田委員、山田委員、奥永委員、樋口委員(欠席者:中村委員、黒澤委員)
5	市側出席者	宮下保健医療部長、場々介護保険課長、西澤介護保険担当係長、木村介護保険担当係長、丸山認定調査係長、古畑介護予防係長、介護予防係 酒井保健師 東部地域包括支援センター:藤澤(芳)主任、藤澤(宏)保健師、平林保健師、 宮入社会福祉士 南部地域包括支援センター:山岸看護師、丸山主任、岡村社会福祉士 北部地域包括支援センター:渡邊主任、佐藤社会福祉士
6	公開・非公開の別	公開
7	傍聴人	0人 記者 0人
8	会議概要作成年月日	平成27年3月26日

協 議 事 項 等

I 会議の概要

1. 開 会
2. 部長あいさつ
3. 会長あいさつ
4. 協議
 - (1) 第2回運営協議会における指摘事項に対する進捗状況
 - (2) 平成27年度安曇野市地域包括支援センター設置運営方針(案)について
 - (3) 地域包括支援センター自己評価について
 - (4) 平成27年度予防給付ケアマネジメント業務委託先事業所の承認(案)について
 - (5) 介護報酬改定に伴う予防給付ケアマネジメント業務委託料の算定(案)について
5. その他
 - (1) 地域ケア個別会議から把握された課題に対する解決策の検討
 - (2) その他連絡事項
6. 閉会

II 協議内容

4. 協議

- (1) 第2回運営協議会における指摘事項に対する進捗状況

事務局: 予防給付に伴う事務量改善策の取り組み状況と権利擁護に関する庁内打ち合わせ会議の進捗状況について報告。

各委員: 質疑応答なし。(承認)

- (2) 平成27年度安曇野市地域包括支援センター設置運営方針(案)について

事務局: 平成27年度の制度改革を受け包括の機能強化に向けた方向性が示された。直営包括を基幹型の包括と位置付ける。在宅医療介護の連携、地域ケア会議、認知症施策の推進を明文化。重点的に取り組む事項として、1つ目が安曇野市の地域ケア会議体制における地域ケア個別会議と地域ケア連携会議の実施、2つ目が認知症施策の推進ということで認知症地域支援推進員を設置し認知症施策に力を入れていく。3つ目として在宅医療介護連携の推進。安曇野市医師会の安曇野市在宅医療連携推進協議会と連携を図りながら進めていく。

各委員： 質疑応答なし。(承認)

(3) 地域包括支援センター自己評価について

事務局： 今回の介護保険制度改正に伴い、地域包括支援センターが自ら行う業務について、その実施度や達成度をチェックするため、自己評価を行うようにとの方向性が示された。安曇野市では平成24年より評価指標の内容を修正しながら既に行っている。3か所の地域包括支援センターが共通の指標を用いて振り返りを行うことで地域包括支援センターの長所と短所を認識するとともに、長所はさらなる充実を図り、短所は改善策を検討することができる。また、評価結果は課題の共有や対応策の検討を市担当者と共有している。

各委員： 質疑応答なし。(承認)

(4) 平成27年度予防給付ケアマネジメント業務委託先事業所の承認(案)について

事務局： 市内外43事業所と委託契約を行いたい。また、今までは住所地特例で施設に入った方については、住所を移した場合であっても保険者の包括がプランを立てていたが、4月からは施設所在地の包括がプランを立てるということになる。そういった方の情報はこれから来るところ。中には43事業所以外に委託されているケースがあるかもしれない。その場合は次回の包括運営協議会でご承認をいただきたいと思う。

各委員： 質疑応答なし。(承認)

(5) 介護報酬改定に伴う予防給付ケアマネジメント業務委託料の算定(案)について

事務局： 報酬改定により介護予防支援費が4,140円から4,300円となる。平成21年度以降の計算式により97%を乗じて10円未満四捨五入ということで4,170円となる。初回加算と介護予防小規模多機能型介護事業所連携加算は変わらず3,000円。

樋口委員： 現在、近隣他市は安曇野市より金額が高くなっている。できたら4,300円に近い金額に設定できないか。

事務局： 委託に伴う事務の部分をどこまで委託するか市町村によって違いがある。書類の印刷費用や給付管理に伴う職員の時給等計算して出てきた現実的な委託料ではないかと感じているので、この計算でいかせていただければと思う。

樋口委員： 実際にどこまで近隣他市がやっているのかお調べいただいているのか。そこらへんも大事だと思う。

事務局： 近隣他市と安曇野市では地域の加算内容が異なるため単価も違ってくる。包括でも事務分があるので、採算を見ながらやっていく内容なのでそこら辺も考慮した中での数字ということでご検討いただきたい。

会長： 近隣他市と安曇野市では根本の値段が違うということで仕方ないと思う。

事務局： 同じ等級の近隣他市でも安曇野市でも、業務委託の形態が異なる保険者もあり、一概に比較はできない状況にある。

会長： 難しい面があるので協議してどうこうというものではないのではないか。4月からの話なので、決めた通りにやっていただくというのはどうか。

樋口委員： 各事業所にやっていただく上でなるべく単価が高い方が良いだろうということ、近隣市町村で同じ方が良いのではないかと思ったので提案させていただいた。

会長： 私も地域によって違わないで全国統一の方が良いような気がする。今回は承認ということではいかがか。

各委員： (承認)

5. その他

(1) 地域ケア個別会議から把握された課題に対しての解決策の検討

事務局： この地域包括支援センター運営協議会は安曇野市地域包括ケア課題検討協議会の中の1協議会であるため、委員の皆様からご意見やアイディア等いただきたい。今回は委員の皆様

様のお立場からケア会議を開く時にどのようなお声掛けをしていけばたくさんの方が同じテーブルにつけるのかお知恵をいただきたい。

樋口委員： 社協には地区社協がある、その中にちょっとした見守りをしてもらう福祉員もいる。ぜひそういった組織も入れていただけたらと思う。もう一つ、なんでもボランティアといっても無理だと思うので、有償在宅といつて少しでもお金を出してお互い助け合うんだよという組織を作るようにしていかなければいけないと思う。

増田委員： 個別会議という名目を立てるとちょっときつい部分もあるが、支え合いでみんなで見守りをして声をかけあってというふうにして、一人ひとり丁寧に支えていくと症状が改善されていくこともあるんだと思う。包括が1軒1軒訪問してくれることが大きな効果を奏していると感謝している。

山田委員： 健康体操を行いましょうと地区でサークルを作った。そういう集まりの時にケア会議の話を出せば情報を得られると思う。

事務局： 民生委員さんに声をかけさせていただいた時に、介護保険のことについてまずご理解いただかないとケア会議に繋がらない。そこで介護保険のサービス担当者会議の時に民生委員さんにお声掛けして日頃から介護の現場との繋がりを持っていただければとの意見があった。民生委員さんの現場としてどうなのか教えていただきたい。先生方には会議にご出席いただける時間帯等お話しいただけるとありがたい。

増田委員： 一緒に繋いでいただければ、私達も繋ぎ返していくことができる。

会長： 民生委員の方には介護にかかわる前の状態のところで大いに働いていただいている。医者が何をやってるか、ケアマネや訪看やヘルパーがどう考えているのか、共有されていない。

事務局： 高橋先生、今後歯科の部分も重要な部分だと思うが会議の案内をさせていただいた場合いかがか。

高橋委員： 今までケアマネさんと接する機会がなくどうすれば良いかと考えていた。個別会議については会議をしないことには色々な話がまとまらないと思う。会議の日程については、休診日か早目に教えていただければ都合はつけられる。会議はぜひ必要だと思うので、時間を作りやすい体制をとっていただければ。

事務局： あるぷさん、連携についてご意見やアドバイスをお願いしたい。

奥永委員： お医者さんの先生方はお忙しいので、私達の会議は夜7時からというのがほとんど。また、評価について、視点としてアウトプットの他に地域がどれだけ良くなったか、生活の質がどう変化したかというアウトカム評価が地域で広がり、市民の方が大切な集まりなんだなと気付けると集まりやすいのではと思う。

丸山（浩）委員： 東京からこちらに来て、都会よりも隣近所の関係が希薄だと思った。健康生きがい隊員というものがあり、そのメンバーが安曇野にもいる。ぜひその方々を探ってみたらいかがか。

丸山（良）委員： ケア会議をやることは非常に良いと思う。今個人情報云々と言われるがお困りの点もあると感じているがいかがか。

事務局： 専門職、サービス事業所関係は守秘義務があるので大丈夫だと思う。一般市民の方については、会議の趣旨や個人情報の持つ問題等を理解していただいてサインをいただいている。

丸山（良）委員： 個人情報個人情報という中々進んでいかないこともあるのではないかと思う。地域の方からも法律が邪魔になることがあると聞いたのでお話しした。

堀内委員： 市民一般の人に会議の存在を知らしめる工夫が必要。

左々木委員： 会議の内容が一般の市民、特に高齢者に話が行くことが難しいと思う。高齢者は回覧版等回ってきても読めなかったり見えなかったりで、意外と見ない。内容が浸透するのは難しいと感じた。

高山（桂）委員： 介護保険利用の方にはサービス担当者会議があり、その席にその方を取り巻く地域の方やご支援いただける方が一緒にご参加いただけると、私達もより一層ご協力できるし私達からお願いすることがあつたりするので、そういった機会があればうれしい。

高山（眞）委員： サービス担当者会議に地域の方や色々な方がお入りになるということは知らない部分に分かって良いと思うが、ご本人やご家族が知られたくないことも知られてしまうのではないかというようにお考えを持たれる方もいらっしゃるのでは、そこがちょっと難しいと感じている。

副会長： 今までこういう会議に何回か出させていただいたが、お医者さんの参加がない。忙しいので無理かなとも思うが、なるべくお医者さんや歯科医師さんはぜひ出ていただきたい。また出ていただけるような工夫もしないといけないと思っている。

事務局： いただいたご意見を参考に改善や取り組めることを検討していきたいと思う。

（2）その他連絡事項

なし

（第3回地域包括支援センター運営協議会閉会）